



わたしは、よみがえりです。いのちです。

2010年1月3日 西宮市愛宕山にて
大村正夫召天『一周年記念会』

大村正夫 召天 『一周年記念会』プログラム

1. 賛美：十字架… 聖歌453「罪深きこの身を」 P.5
2. 使徒信条 唱和 P.2
3. 祈祷
4. 追憶・所感・あかしの言葉
5. 賛美：復活… 聖歌664「イースターの朝には」 P.3-4
6. 聖書交読 新約聖書ルカによる福音書23章32-43節 P.4
7. 奨励 短いメッセージ
8. 賛美：再臨… 聖歌634「世の終わりのラッパ」 P.6
9. 主の祈り
10. 頌栄 聖歌384「すべての恵みの」 P.1
11. 祝祷

384

すべてのめぐみの

(賛栄唱)

Praise God, from whom all blessings flow
THOMAS KEN, 1709 (GN)

OLD HUNDRETH
GENEVAN PSALTER, 1551

はやおそく ♩ = 69

すべてのめぐみのもとなるみかみを

Detailed description: This block contains the first system of musical notation for the hymn 'すべてのめぐみの'. It features a treble and bass clef staff in G major (one sharp) and 4/4 time. The melody is written in the treble clef, and the bass line is in the bass clef. The lyrics are written below the notes. The tempo is marked 'はやおそく' (moderato) with a quarter note equal to 69 beats per minute. The first system ends with a double bar line.

つくられしものよいざたたえまつれアメン

Detailed description: This block contains the second system of musical notation for the hymn 'すべてのめぐみの'. It continues the melody and bass line from the first system. The lyrics are written below the notes. The system ends with a double bar line.

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりて宿り、乙女マリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人の内よりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしてより来りて生ける者と死にたる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。アーメン。

主の祈り

天にまします我らの父よ。願わくは御名を崇めさせたまえ。御国を来らせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。我らに罪をおかす者を、我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いだしたまえ。国と力と栄えとは限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

—あなたは今日、私と共にパラダイスにいます！—

■イエスさま、私の名前を覚えていてください！

最近ある方の臨終に立ち会うことになった。まもなく召されようとしていたが、まだ救われていなかった。身も心も苦しんでおられたが、医療処置以外誰も助けることができない状態だった。私は死を間近にしたこの苦しみのひとつは「自分が死後、どこに行くか分からない苦しみである」と思った。そして、私にはひとつの確信があった。「私たちには“主イエス”の名前が与えられている。今こそ、この名前を提供すべき時である。天国の入口の鍵を差し上げるべき時である」と。家族と親族がそばにおられ、少し気が引けたが、勇気をもって「Mさん、イエスさまを信じて天国に行きましょう！」手を強く握って話すと、大きな目でじっと見つめ、強く握り返して下さった。それで「Mさん、今、心のうちでこのように念じるだけで良いのです」と語りかけた。すでに臨終の時が迫っており、耳は良く聞こえたが、もはや口はきけない状態だった。手を強く握り、目を合わせ「イエスさま、Mです。私の名前を覚えていてください。よろしく願います。アーメン！」(ルカ 23:42)と念じてください、と語りかけた。その時、きらりと眼光を光らせ、強く手を握り返された。そこで、私は左手に水を含ませ、その手を額に置き祈りをささげた。「神様、このMさんを天国に迎え入れてください。天国にて私たちと再会できるようにしてください。アーメン！」Mさんは、阪神大震災から14年目、1月17日の朝、エンジンの停止した飛行機が川面に滑走するかのようになり、静かに息を引き取られた。

■人間は死後、どうなるのか？

それで、人間は死後、どうなるのか。聖書の要約であり、小さな“組織神学書”である『ウエストミンスター信仰告白』第32章1項には「人間のからだは、死後ただちにちりに帰り、朽ち果てる。しかし彼の靈魂は(死にもせず、眠りもせず)不死の本質をもっているため、直ちにそれを与えられた神に帰る。義人の靈魂は、その時に完全にきよくされ、最高の天に受け入れられ、そこで、彼らのからだの全き贖いを待ちながら、光と栄光のうちに神のみ顔を見る。また悪人の靈魂は、地獄に投げ込まれ、大いなる日の裁きまで閉じ込められ、大いなる日の裁きまで閉じ込められ、そこで苦悩と徹底的暗黒のうちにあり続ける。聖書は、からだを離れた靈魂に対して、これら二つの場所以外には何も認めていない」とある。